

CEPTメンバーと学生が選挙について語り合ったフリートーク＝12日夜、福井市の福井大文京キャンパス



H22.5.14 福井(2)  
県明るい選挙青年隊

## 福井大生と議論

### 「政治語れる場を」

学生に選挙への関心を高めてもらうと、県内の若者でつくる「県明るい選挙推進青年活動隊」(CEPT)は12日夜、福井市の福井大文京キャンパスで同大生と選挙を語り合うフリートークを開いた。若者の投票率向上に向け、学生からは「気楽に政治を語り合える場を設けては」などの提言が出された。

CEPTの呼び掛けで、同大1年から大学院生までの5人が「くらしと選挙」をテーマにメンバー7人と話し合った。昨年の衆院選で初めて投票したという学生が多く、参加者の一人は「自分の一票で政権交代が起き、政治に関心を持つきっかけになった」と語った。

「若者がどついたら投票に行くのか」の質問には、「マニフェストなど予備知識がないと関心が

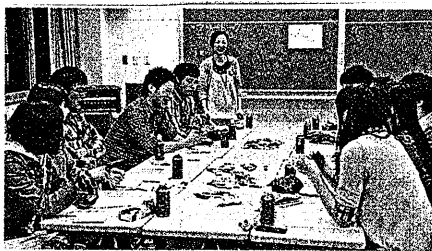
持たない。政治について学べる場を作ってはどうか」「同世代で政治について話す場があれば関心を持って」など、さまざまな提案が出された。

CEPTは県選管が公募し2005年に発足。現在、学生や社会人の男性2人、女性10人で構成し平均年齢は22歳。

H22.5.14 県民福井3  
若者の投票増へ  
選挙啓発法探る

## 福井でセプト

福井県内の若者でつくる「県明るい選挙推進青年活動隊」(CEPT)は12日夜、福井市の福井大文京キャンパスで、投票に行く若者を増やす方法などについて話し合った。写真。



セプトは、二〇〇五年に県選挙管理委員会が県内の二十代の若者を募集してつくった団体。メンバーは主に県

内の大学生で、これまで若者の投票率増加のため、ショッピングセンターでの選挙啓発チラシの配布や、学生向けの模擬選挙などの活動を行ってきた。

この日は、セプトのメンバーと県内の大学生の計十二人が参加。投票したきっかけ、投票したことで変化したこと、若者が投票に行くようにする方法などについて意見を出し合い、今後の啓発活動の方針を話し合った。

参加者からは「投票に行く、恋人や友達と政治のニュースを見て話が盛り上がる」「子どものころから家庭で政治の話をする」ことが大切。子どもに分かりやすく政治を教えるべきだと思つ」などの意見が出されていた。

(藤共生)